

一切経山山行報告

【山行日】2017年10月15(日) 曇り

【集 合】栃木市運動公園P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 3,500円

【メンバー】 CL:鈴木、大西、島田、関、
鶴見、福田々、渡辺

【コースタイム】栃木市運動公園P4:00＝

浄土平P6:45/7:10～酸ヶ平避難小屋8:00/8:15

～一切経山8:50/9:05～家形山9:45/9:55～

一切経山 10:35/10:45～酸ヶ平避難小屋

11:05/11:40～鎌沼12:10～浄土平13:05/13:15

～吾妻小富士13:30～浄土平14:15/14:30＝栃木市運動公園P17:25

去年、一切経山を計画をしたが、火山性ガスによる入山規制で登れず断念した。去年の10/19に火山性ガスがレベル2からレベル1に引き下げられ、浄土平からの登山道が登れるようになった



ので紅葉の時季を狙って計画した。

天気予報は昼までは曇りの予報なので、雨が降ったら戻ればよいと腹をくくり決行した。

東北道の福島西ICで降り、フルーツラインから吾妻スカイラインを走り浄土平を目指す。

高湯温泉を過ぎると鮮やかな紅葉が見られ、皆さん「ウワ～綺麗」と歓声を上げ喜んでいた。

F田さんは「この紅葉を見られたら山に登らなくてもいいや」と感動していた。あまりに綺麗な

ので「天狗の庭」の標識がある所で車を降り、しばし紅葉見学を楽しんだ。浄土平の駐車場に着くと車は数台しか無く、料金を払うことなく止められた。準備を整えトイレを済ませ、ストレッチをして出発する。ビジターセンターの脇を通り、広い臨時駐車場を過ぎると登山道に入る。道標に従って鎌沼への分岐を右に進み、酸ヶ平に向かって登って行く。

灌木の紅葉の道を登り、木道を歩くようになる。酸ヶ平にたどり着き、分岐を右に進むと避難小屋が建っている。避難小屋で小休止し、トイレを借りたら出発する。小屋からは沢筋を登って、一切経山の斜面に取りつく。このころから山頂にガスが掛かり始め、山の上部が見えなくなる。広いガレに着くと一切経山は目前で、登り着いた山頂には大きな石積と祠がある。

広い山頂の北の端に行くとガスが晴れ、「魔女の瞳」と言われる五色沼がブルーの瞳を瞬いてくれた。

山頂の標識に戻り、グレープフルーツやまんじゅうを食べ休憩し、記念写真を撮ったら家形



山へ向かう。〇嬢とF田さんは体力を温存したいと、避難小屋へ戻ることにする。家形山へは山頂の北端から左に降りて行き、五色沼の西側を通り左の斜面を登って行く。急坂を10分ほど頑張ると山頂に着くが、石積みがあるだけで標識などは無い。少し先のシラビソの樹林の中に、家形山の小さな札が掛かっていた。記念写真を撮ったら下山し、来た道に戻り一切経山まで登り返す。登山者がどんどん登って来るが、ガスが濃くなり展望が無く皆がっかりしていた。避難小屋まで戻ると先に降りた二人が出迎えてくれ、昼食は避難小屋の中で食べると良いと言うので、少し早いランチタイムにする。小屋のベンチでチタケうどんを作り食っていると、隣の外人さんが珍しそうに覗き込んでいた。Sさんが「チタケうどん、チタケうどん」と身振り手振りを交え教えていたが…通



じてないようだった。昼食が済んだら鎌沼を半周するコースをたどり、姥ヶ原に向かう。このコースへ向かう登山者は少なく、静かな山歩きを楽しめるお勧めのコースだ。姥ヶ原からはえぐれた登山道を下るようになり、ぬかるんだ道を滑らないように慎重に下る。浄土平に戻り「吾妻小富士はガスが掛かっているので止めよう」と言うと、〇嬢から「エ～今回は絶対登りたいと思って来た。そのために家形山は断念した。」と言われ登ることにする。トイレを済ませ小休止し、リンゴや菓子を食べたら

吾妻小富士に向かう。観光客が大勢登っており、登りと下りのすれ違いに神経を使う。15分で火口の縁に登り、ここから火口を時計回りに一周する。ガスで眺望は得られなかったが、火口の最高地点に登るとガスが晴れ紅葉の樹海が広がる絶景を見ることが出来た。〇嬢も「登ってよかった」と喜んで、皆さんも雨に降られず予定のコースを歩け大満足の様子だった。浄土平に戻り、レストハウスで買い物したら帰路につく。フルーツラインでリンゴの直売所に寄り、試食して美味しかったリンゴを購入する。



我輩も気に入ったリンゴを2袋買ったが、値段の割にとっても美味しく食べられた。東北道は渋滞も無く順調に走り、予定よりも早く栃木市運動公園へ帰着出来た。